

## 実践活動発表

### 「親が変われば、子どもも変わる」運動実践活動

関係団体、機関、地域の大人たちと連携して取り組んだ活動を発表しました。

こあらくらぶ／朗読ボランティア“ひまわり”(水戸市)  
子育て真っ最中の子育てサークル「こあらくらぶ」と同じ公民館を拠点にして活動している「朗読ボランティア“ひまわり”」が連携、協力して取り組んでいる活動を発表しました。

また、昨年度実施した野外活動の経験から親子での時間の過ごし方の多様さを知り、「子どもとメディア」の啓発活動に取り組んだことを発表しました。

土浦市更生保護女性会(土浦市)

この団体は、毎月2回、「お母さんの談話室」を開いて親同士、子ども同士の交流を図っています。

本年度は、「子どもとメディアを考える」をテーマとした新たな活動に取り組み、テレビ、ビデオとの上手な付き合い方の啓蒙活動を行いました。意識調査を実施するなどして親の意識や行動の変化を発表しました。

また、「カエルの家族」の人形劇を通した「しつけ」を保育所、幼稚園、小学校等で行っている活動の様子を寸劇で発表されました。



古河市地域女性団体連絡会(古河市)

この団体は、毎月1回開催している子育てサロン「ゆりかご」などを通して、身近な生活行事や生活の知恵を伝えています。

関係団体と一緒に取り組んだ野外での活動や読み聞かせ活動と子育て談義について発表しました。

### 「地域親」実践活動

舞祭「SAKURA組」(日立市)

舞祭とは、小中学生を中心とした踊り子たちがチームや連を作って群舞する新しい祭りづくりの総称です。大人がサポートに回り、一緒に踊り、子どもと多くの体験を共有することで、新たな家庭・地域の絆を作っていくことを大きな柱としています。

今回は、県内に数多くあるチームの中から、日立市の舞祭「SAKURA組」が幼稚園児から大人まで幅広い年齢層が一体となった演技を披露してくれました。

子どもと一緒に同じ目標を持って取り組み、気持ちが一つになった踊りは皆さんに元気を与えてくれました。



## 講演

現代青少年問題と親のあり方  
一子供はどのように心理的に成長するかー  
早稲田大学教授 加藤 諦三先生



親や大人は「子どもの心のうちを理解すること」が大切と実例を挙げながら話されました。

「日頃子どものために良いことと思い実行していたことが、逆に子どもに負担をかけていたことに気付いた。」「子どもの言葉や行動の裏側にある気持ちを汲み取ってあげたい。」「子どもの本来持つ才能を伸ばしてあげることの大切さをしみじみと感じた。」「もっと先生の話を知りたい。」などといった感想が数多く寄せられ大変好評でした。



「家庭の日」絵画・ポスターをロビー両サイドに展示しました

優秀作品を参加者の皆さんの投票で決定し、青少年育成国民会議主催の「家庭の日」絵画・ポスター展に出展しました。

その絵画・ポスター展で、那珂市立戸多小学校4年の小田部明広君が「児童(小学生)の部」で最優秀賞に輝きました。